



地域で慈しみ守り継ぐ、 花と里山を巡る春散歩

待ちに待った春。うららかな日和は、市内に数多くある花の名所を訪ねて季節を満喫しましょう。今年も市街地から離れた町へ、福島市松川町にある花の里「水原地区」からスタートしてみませんか。地元の花びらが種を保護を続けてきた桜や、クマガイソウをはじめとする山野草など、可憐な花々が咲き誇りますよ。



水原右輪台山のしだれ桜を育てる会 会長
丹野 政光さん
1952年生まれ。代々続く農業を継ぎ農業士としてきた。2019年、現任の町内会長に就任する際、「水原右輪台山のしだれ桜を育てる会」を立ち上げ、会長を引き受け現在に至る。

里山が広がる水原地区を 一年に一度、 淡いピンクに染めるしだれ桜



右輪台山の しだれ桜

見 場 / 4月上旬～中旬
料 金 / 無料 (お花持ち帰り協力金をお断りします)
所在地 / 福島県中村町水原右輪台山
駐車場 / 無料駐車場あり
開花期間中「右輪台山しだれ桜まつり」を開催。18:00～21:00にライトアップをします。土日は休日もあります。



右輪台山の風景や桜の満開を撮影する「水原右輪台山のしだれ桜を育てる会」の会員

地域の環境保全に取り組み
団体から譲り受けた桜

こんな桜のトンネルになるとはね。25年前は、想像もしていませんでした(笑)。きっかけは、魅力ある地域づくりと環境美化を目的に、1992年に立ち上げた「活性化集団水原21」です。私もメンバーの一人で、今も活動を続けています。当初は単年度の事業を続けていたのですが、1998年に3年計画で「みずはら花の里づくり」に取り組みました。助成金をいただいてサルスマリアやモミジなどを植えて、花いっぱい運動を展開したんです。初年度にしだれ桜の苗を千本購入しました。苗は水原地区の320世帯に配布したほか、集会所や神社仏閣に植えました。ほかに植える所はないかと話をしていた時に、「右輪台山がある」と提案しました。

右輪台山は、もともと桑畑だったところで、養蚕業の衰退と高齢化で荒廃する一方だった場所です。丘陵地帯のほぼ真ん中に、全長約560mの道があり、その両側に桜を植えました。みんなで花見ができると思いましたが、「それはいい」とみんなが言うので、当時の関北町内会長に相

談して、地権者全員に許可をいただき、桑の木を抜くなど準備を進めました。

108本の桜が人を動かし
人を集め地域を元気にする

1999年3月、右輪台山にしだれ桜を植えました。みんなで剪定や草刈り、消毒、追肥など手入れを続けた甲斐があって、育ってしまいました。108本のしだれ桜のトンネルを歩いているうちに、町内会でお花見ができるまでになりました。そうこうしているうちに、桜を見に来る人が増えたので、2013年から「右輪台山しだれ桜まつり」を開くようになりました。私と同年代の仲間たちから「何かしたい」「ライトアップはどうだろう」

などの声が上がったことから、2019年に「水原右輪台山のしだれ桜を育てる会」を立ち上げました。町内会全員が会員です(笑)。3月になるとみんなで枯れ枝の整理や倒木の撤除、行灯などの準備をして、祭りに備えます。祭りの期間中は交通整理もします。2022年から会のメンバーが土日限定でお店も出すようになり、お客さまに喜ばれています。

花と里山の風景の中に人の
暮らしが溶け込む水原地区

私が好きな風景は、空気が澄んでいる朝の桜並木です。小高い丘の上にあるので眺めも良く、西は残雪の安達太良山、東は千貫森も楽しめます。8年前、右輪台山の近くにソメイコシノを100本植えました。成



夜の桜並木とライトアップのライトアップの様子。写真は、福島県や福島市など全県から約2万人以上の観光客。

